

やっ報

2015年 10月20日 No111

発行 松本あきお後援会

(TEL (0847-82-2149))

<http://www.kagayakinete.net/~matumoto-313>

Eメール matumoto-313@sky.kagayakinete.net.jp



油木高校体育祭・3段タワー



神石高原町 まち・ひと・しごと創生

総合戦略を策定

平成72(2060)年に人口7,500人を

神石高原町は、人口の減少と高齢化が急激に進行しており、このまま進むと25年後の平成52年には人口が5,100人へと半減し、高齢化率は、54・5%になると予想されます。

こうした状況の中、町民一人ひとりが夢や希望を持ち、潤いのある豊かな生活を安心して営む事が出来る持続可能な地域社会を形成するため、「神石高原町まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定しました。

この総合戦略は、総合戦略策定委員会(座長平川里士・自治振興会連絡協議会会長他11名)により策定されました。

人口ビジョン

国の長期ビジョンを踏まえ平成27年から平成72年までの計画が策定されました。

長期展望では、平成72(2060)年に人口7500人の確保と人口構造の若返りを目指します。

現在のままでの人口推移によると、平成72年では3002人と予想されています。乗せを見込んでいます。そのためには、毎年80人の増加が必要で、かなりハードルの高い数字となっています。安心安全に暮らすために、その核となる小学校を現在の5校のまま維持するために必要な人口です。子育て世代が安心して暮らせる社会の実現が必要です。

ふるさと応援寄付金・1億7千万円

がんばる神石高原町ふるさと応援寄付金(ふるさと納税)は、当初予算で5千万円予算化されていました



ウォーキング教室・スコラ高原

9月議会の経過

- 9月定例議会は、会期を9月7日から24日までと決めました。
- 8月7日 議会運営委員会
- 8月31日 議会運営委員会
監査委員より監査意見書の提出
- 9月7日 議会開会
教育委員会の点検評価等
26年度決算提案
議員調整会議
決算説明(各課ごとに)
議会広報委員会
- 9月8日~9日
議員調整会議・決算説明
- 9月10日 各常任委員会
- 9月14日 議会・本会議
決算総括質疑・決算認定
- 9月15日 議会・一質問 5人
- 9月16日 議会・一般質問 4人
- 9月17日
議員調整会議 補正予算説明等
各常任委員会
- 9月18日 議会最終日
条例改正・補正予算・発議など
- 9月24日 議会広報委員会
- 9月30日 議会広報委員会
- 10月6日 議会広報委員会
- 10月9日 議会広報委員会

が、寄付金が増額したため、9月議会で1億2千万円追加補正され、1億7千万円となりました。寄付金の内訳は、犬の殺処分ゼロに取り組むNPOピースウィンズ・ジャパンに対する寄付金が圧倒的に多く1億円を突破する見込みです。町に対する寄付金は、190万円、自治振興会に対する寄付金は100万円です。NPO・自治振興会に寄付された金額は、町が5%、NPO等に95%交付され、納税に対するお礼は団体から送られます。



油木地域敬老会 油木保育所園児のおどり

あなたに代わって おたずねしました。 松本議員の一般質問

問 農地の荒廃をどう防ぐのか

答 中山間直接支払い制度を活用

松本 農家の後継者がいなく高齢化が進む中、生産者米価は、暴落して耕作放棄地は増える一方である。

本町では零細農家が多く、その人たちが地域の農業と農地を守ってきたが、その人達がリタイアされると耕作放棄地は益々増える。今後農地の荒廃をどう防ぐのか。

町長 中山間直接支払い制度は、本年度より第4期対策が始まり、新たな対策として集落連携協定が加えられた。農地の維持・事務作業が難しい集落に対しては、集落間で連携・カバーしよう。

この制度を推進したい。**松本** 高齢者の人は、これから5年間自信がないと集落協定に加入されていない。今までは、集落間でカバーする体制をとっていたが、それも難しくなった。集落間ではカバーする事も、現実的には難しいのではないかと。**町長** 高齢化が進む中、難しい課題である。出来るだけ地域で頑張って頂きたい。

松本 国の方針により、法人化や大型農家の育成が進められているが、法人の組織化も限界に近く、現在の組織を維持するのも困難な法人もある。一方で、小規模な農家は、

高齢化しながらも、農地を荒らさないために、赤字を覚悟で必死に農業を続けている。この零細農家が、利益を上げる農業、もつかる農業を取り組まないと、農業をやめる人が増えるばかりだが、零細農家が収入を得る対策をどのように考えているのか。

町長 小規模で高齢化した農家が稼げる農業施策の特効薬はない。本町の農業法人は、14法人あるが、集落営農型法人が主であり、後継者不足に加え、米価の下落でコメ単作では経営が難しい。複合経営の法人が何とか経営を維持している状況である。大規模な複合型経営法人を育成し、作業受託などによる人員確保で経営の安定化と農地の保全を図りたい。町単独での農業支援には限界がある。



油木地域敬老会・油木小学校よさこいソーラン

松本 5年前の国勢調査でも高齢者の単身・夫婦世帯が、約39%となっている。このままでは、集落の維持が困難になる。この対策は。

町長 人口減少の中で大切にしなければならぬのは人間関係である。集落に住んでいる人だけでなく、近くに住んでいる人の協力も必要である。協働支援センターを立ち上げ行政だけでなく、行政と町民が一体となり、集落や地域をどう守るか真剣に考える。

松本 まち・ひと・ことと創生事業に集落機能の維持・再生に向けての具体策を盛り込むのか。

町長 協働支援センターの設置や空き家バンクの推進等で集落の空き家対策を取り組みたいと考えている。

松本 住み慣れた地域で生活を続けるためには、医療・福祉・介護の充実が重要である。地域包括ケアシステムや病院の機能・あり方などについて検討されているが、町全体の連携が取れた計画を策定しているのか。

保健課長 地域包括ケアシステムの構築は、町づくりの視点が必要なことから、関係機関と連携して、神石高原町版包括ケアシステムの仕組みづくりに取り組む。

必要では 葬祭を代行する組織が

松本 地域の高齢化が進み、地域で葬祭を行うのが難しくなっている。死亡届から、葬祭まで代行する組織が必要ではないか。

まちづくり推進課長 行政では取り組めない。葬式組の再編等で取り組んで欲しい。

松本 例えば森林組合や、NPO等で、葬祭を代行する組織を作ってはどうか。

まちづくり推進課長 今後検討したい。

決算審議での質問

トマト団地中止の経過は

松本 本町の農業振興や定住対策などについて大きな期待を持っていただけたトマト団地が、知事の反対によって中止となった。東部農林水産事務所長など、県の機関も一緒に推進本部を立ち上げて取り組んでいたのに、なぜ突然に知事の方針が変わったのか理解できない。経過を詳しく説明して頂きたい。



油木百彩館

町長 26年度決算は、財政健全化に向けて大きく前進していると評価される。しかし、町の決算は町民の満足度をどのように上げることでできたかが大切である。町長はこの点についてどのように評価しているのか。

町長 定住対策について、井関の定住団地は成果があったと思う。ローソン号を利用した買い物支援や、町独自の政策をとりくんだが、残念ながら、人口の減少に中々歯止め

町長 県の出先機関が指導して可能という事で、町も用地測量等先行投資をした。農林水産局長には経過を話している。知事は、町が先行投資していることを知っていないのかもしれない。

誰の責任かと言えば、町長の責任であるが、県に対しても追及していく。

松本 県会議員とは協議したのか。

町長 県会議員選挙の最中であつたが協議した。決算委員会などで質問してもらう。

松本 このような事があれば今後の町の農業施策にも影響がある。県知事の農業政策をどのように受け止めているのか。

町長 知事は、農業への補助金は、今後個人にはしない方針で、法人等組織を重視する方針のようだ。

今年度のトマト農家への補助金は交付される予定だが、今後は厳しい。

中山問地の零細農業の実態を良く理解してもらつたように、知事の認識を変えてもらわないと、本町のような小さい規模の農業の生き残りは厳しい。

26年度決算の評価は

松本 子育て支援・農業振興など、町独自の施策を積極的に取り組まれている。施策の実行にあたっては、温かみのある対応を願う。買い物支援も移動販売に頼っているが、高齢者が直接買い物に行かれない対策を考へる必要がある。

子育て支援は、小児科の設置を望む声が多いが、保健課長 小児科の要望が多い事は承知しているが、医師不足の中でも小児科医は特に深刻で、町立病院への設置は難しい。買い物支援の対策については検討したい。



油木高校生のナマズ料理・油木百彩館

町長 トマト団地については、計画ができていつある段階（平成26年度）で推進本部を立ち上げた。本部長は町長、副本部長にJA福山市の組合長が当たり、県からも東部農林水産事務所長、東部農業技術指導所長が構成員として入っていた。

可能性を積み上げ、県の出先機関も大丈夫だろうと言われ、可されると思い、用地交渉を進めていた。

松本 県の決済・機構がどうなっているのか不信を感じる。知事への対応等はどのようにしていたのか。

町長 出先機関を通じて、知事への面会も打診したが、もう少し煮詰まってきたらの方が良いと言われたので、時期を待っていた。東部農林水産事務所が進めていた事業を県知事が一方的に中止する事は如何なものかと異議を申し立てている。

松本 この事業について、県の機関はどのように受け止めていたのか。

町立病院看護師などの職員確保対策

看護師に就職支度金 250万円を貸与

町立病院の医師・看護師を確保するため、3本の矢フロシエクトを実施する事が決まりました。

現在町立病院の看護師は平均年齢が51歳と高く、1、2年の間に定年を迎える看護師が多いため、確保対策に取り組みます。

★夜間勤務手当助成

目的 看護師等に定年まで努めるための動機付け

支給額 1人1回 2千円
1日11人が対象



県消防大会4位に入賞した豊松方面隊

研修医 月額 20万円

貸付期間 2年

看護学生等 月額10万円

入学支度金 50万円

奨学金貸付現在までの実績

医師 2名

看護師 5名

現在全国的に看護師不足が深刻な問題となつています。

そつした中で看護師を確保するためにこの対策が取られました。

奨学金貸付制度は他の市・町でも取り組まれています。

就職支度金制度は、広島県では、初めて取り組みです。

島根県の日南町では、この制度をつくり支度金、百万円を貸与しています。

5年間勤務すれば償還は免除されます。町内の他の施設からの転職を防ぐために、町内の、医療機関・福祉施設等に看護師として勤めていた人は、退職後5年間は、この制度は使えません。

奨学金も若い人の利用は、ありません。若い人は、色々経験でき、研修できる病院を希望されるからだと思います。これらの対策も必要です。

やすらぎ苑・告別室を整備

家族葬など小人数の利用に対応

やすらぎ苑の告別室を整備して、和室(14畳半)と洋室(椅子30脚)の2部屋を整備しました。

家族葬などの小人数の葬式や通夜、親族の控室等に利用する事が出来ます。

利用料が改定され、告別室を葬儀に使う場合は、3時間

が3万円(町外の人は6万円) 3時間を超える場合は、1時間毎に1万円(町外の人は2万円)

通夜の場合は24時間が5万円(町外の人は10万円)

24時間を超える場合は1時間毎に5千円(町外の人は1万円)となります。

走ってきました

聖湖マラソン

北広島町



聖湖ハーフマラソン・内藤 栄さんと

9月4日に北広島町で行われた「聖湖マラソン」でハーフマラソンに、内藤 栄さんと2人参加しました。栄さんと2人も無事完走できました。

タイム 2時間4分33秒

男子 65歳以上の部 33位

男子 185人中

男子 総合 569位(1055人中)